

# 京都から発信する政策研究交流大会

## <事業概要>

京都から発信する政策研究交流大会は、都市が抱える課題を見つけ、それを解決するための研究を行う学生が日頃の研究成果を発表し、大学やゼミの枠を越えた交流を深め、社会に対する政策提案・情報発信の場となることを目的として、2005年度から開催している大会です。政策系の学部を有する大学のみならず、多様な大学の学生の参加を促し、研究発表を通して更なる研究の深化と広範な交流の機会とすることを目指しています。



## <参加者の声>

- 他の参加者の方の政策提言を見ることができて大変勉強になった。
- 発想豊かな研究テーマが多く興味深かった。また、研究の実施方法など自身の研究の参考になる点も多かった。
- このような機会がなかったら、仲間と協力し合って1つの政策提言に向けて真剣になれることはなかったと思うでいい経験になった。
- 調査・研究したものをこのような大きな会場で発表する機会や他大学の高レベルの研究、発表を聞く機会は、なかなかないため、とても良い経験になった。
- 大会のいう政策研究とはどのようなものなのかを明確にしてほしい。例えば、政策提言を行わなくても、何らかの政策をするにあたっての重要な資料を提供する研究は存在すると思う。
- 学生の出入りが激しかったので、改善して欲しい。「交流大会」なのに他の発表を聞かず、自分達の発表のみで満足するのは、政策を考えるものとしてどうなのかと思う。
- 同大学の方の応援に来るのはいいと思うが、せめて同じ分科会の方の発表は聞くべきであると思った。学生企画はとても楽しく、良い交流の時間だったと思う。

## <参加者の声を受けて改善を図った点>

- 感染対策を徹底し、対面で開催した。
- 可能な限り審査員が自分の大学の学生を審査することがないように分科会を振り分けるなど、審査に偏りが無いことを示す対応を行った。
- 発表者に対しての大会参加に係る連絡が大会直前にならないよう余裕を持って、丁寧に行った。
- 学生企画について、他大学の学生同士が交流でき、誰でも気軽に参加しやすい内容とした。

## 【総括】

2022年度は3年ぶりに対面で開催した。日本を代表する国立の国際会議場である国立京都国際会館で初めて実施し、応募組数は108組と昨年度に比べて増加した。新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み一般聴講者の来場参加の受付は行わず、発表者とその関係者(教員、ゼミ生)446名が来場した。発表や学生企画では教員や学生同士の活発な交流が見られ、受賞者発表では学生がガッツポーズで喜ぶ姿や、舞台上で嬉しそうに集合写真を撮る様子が印象的で、対面開催ならではの光景であった。本大会が発表者にとって、学びとやりがいを得る場となっていることがうかがわれた。一方で運営面の改善を求める意見もあり、次年度以降の大会運営の改善に活かせるよう検討していきたい。

## 参加者満足度

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
満足(名)	80	88	84	130	57	117	94
不満(名)	0	5	3	8	6	10	3
満足(構成比)	100.0%	94.6%	96.6%	94.2%	90.5%	92.1%	96.9%
不満(構成比)	0.0%	-5.4%	-3.4%	-5.8%	-9.5%	-7.9%	-3.1%
DI値(構成比)	100.0%	89.2%	93.1%	88.4%	81.0%	84.3%	93.8%
参加者数(名)	423	352	392	507	433	607	446

## 他者推奨度

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
推奨(名)	61	76	67	95	56	99	86
非推奨(名)	1	4	0	2	3	10	3
推奨(構成比)	98.4%	95.0%	100.0%	97.9%	94.9%	90.8%	96.6%
非推奨(構成比)	-1.6%	-5.0%	0.0%	-2.1%	-5.1%	-9.2%	-3.4%
DI値(構成比)	96.8%	90.0%	100.0%	95.9%	89.8%	81.7%	93.3%
参加者数(名)	423	352	392	507	433	607	446

## ※DI (Diffusion Index)値とは

「良い／悪い」「上昇／下落」といった定性的な指標を数値化して、単一の値に集約する加工統計手法のこと。または、この方法によって得られた指数をいう。DIは、時系列データであれば値の増加(プラス)／減少(マイナス)、サーベイデータ(アンケートなど)であれば回答を良い／悪いなどの属性に分類し、その属性の個数を集計して全系列数に占める割合などから算出する。

<http://www.itmedia.co.jp/im/articles/0707/09/news108.html>